

の様な可愛いお花が、お室にも咲きました。身體が地面に着くまで低くしやがみ、元氣よく眞直ぐ伸び上りませう。規則正しく正確に立つたりしやがんだりする事は足の運動であると共に全身に作用致します。

「どの花見ても」

同様、花の形を保つたまゝ、蹠足で各自の廻りを一廻りする。

「綺麗だな」

内心を向いて足踏みと共に拍手する。

始めから終りまで、綺麗な花である事は、相當努力を要することとせう。

これは、一人一人が花であると共に、全體が大きな花でありましたが、今度は一列のチューリップ兵隊になつて見ます。

即ち四人一組で横隊に並びます。

始めの動作は同様、「チューリップの花が、」の時に一齊にしやがみ、「竝んだく」から、順々に一人づゝ立ち上ります。

或は四つの列を作り、前の様にして、一列づゝ立ち上つても面白いとせう。

大體この様にして、歩くこと、蹠ること、スキップすることより、簡単な動作のものへ導き、基礎的動作を通して、團體的行動への準備としたので御座います。

観

察

清水光子

幼稚園に來たばかりの子ども達にとつては何もかもが新しいこと、新しいものばかりできつとそれだけで日々一ぱいであらう、それだから觀察が出來ないといふわけはないし、だからこそその新しく受入れたものを整理したり、観る習慣へ導いたり、よりよくみるやうにしたりして助けて、ものをみる本當の態度を斯うした最初の機會に養ふべきだと思ふ。

幼稚園各室、庭、國旗掲揚場

入園式がすんで今日から幼稚園で遊ぶといふ日皆で揃つて幼稚園の中を見てまはる。附添から離れない子どもは附添と一しよに、やうやく離れたやうな子どもは手を引いて、幼稚園のおへやを方々見てきませうと誘つて、話し乍ら歩く。お玄關では靴箱があるなら出し入れのし方をやつて見せて、誰さんはどこ、こゝね、といふやうに早く銘々の場所を覺えるやうにする。帽子掛けても同じやうに帽子を落ちないやうに掛けませうといふ注意と一しよに場所を知らせる。それから年長組の室とか、何の組の室、先生の室、遊戲室、といふやうに見て歩く。その時その室の位置や特徴も話し乍ら見て歩くやうにする。たとへば私達の室から一ぱん遠いとか、何番目の窓とか、向ひ側とか、左か右かとか、窓がこゝだけは三つあるとか、戸に模様があるとかいふ程度に。そして遊戲室ではそのまゝ年長組の遊戲を見せて貰つたり、一しよに入れてもらつたりしてもよい。

お元氣がよければお庭へ誘ふ。出口では履き物の始末に氣をつける。ブランコ滑臺などの遊具はすぐにも乗りたい子どももあるけどみんな一まはりしてからといふことにしておく。

幼稚園の國旗掲揚場には言ふ迄もないけれども嚴肅な氣持を持たせたい。園によつては毎日その下に集ることもあらうし當番で順番に掲揚することもあらう。その様な事を話して、青空にひるがへる日の丸を仰いでの氣持を共に味ふ事にし度い。尙その時今日はこちらから風がふいてゐるのね、といふ注意を一寸し度い。

### お庭の木や草の芽と花

始めにお庭を廻り歩いた時にも木や草、花について注意をむけるのだけれど特に芽を見るのに外へ誘つて見て歩く。芽を見に行きませうといふのでなく何といふことなく庭を歩き乍らこんな可愛い、芽が出てゐるのをみつけたといふ風に、まだ固いのや、もう葉を出しかけてゐるのや、赤いのやみどり色のや光つてゐるのや毛ばだつてゐるのなぞみつけてゆく、そしてこんな可愛い、木や草の赤ちやんはこれから葉になつたり花になつたりするのであること、大事にしてふんだりむしつたりしないやうにどの注意をし度い。又此頃は色々の花が咲く。櫻、椿、桃、その他の木の花や花壇の花が次々に。庭にあるのは咲いてゐるまゝを眺めてもよし一枝花瓶に活けてかざつてもよい。櫻がお庭になければ花瓶にだけは欲しい。けれど花瓣が五枚で葎が如何なつてゐるといふやうなことは言はないで櫻の花、きれいな、と言つてみる程度にする。椿でも同様であるがこれは花が大きいから切紙や寫生の材料にいゝし、さうすれば自然に花びらや葎の様子がよくみられる。散つた花びらはひごにさして集めて遊んだり、まゝごとの御馳走

にする。こんなことで觀察が出来るかと一種不安な心持がすることもあるが、これでよいのでこれ以上ではゆきすぎると思ふ。又斯うした間にもこちらの心がけと態度で子どももの科學心へみちびく機會が澤山あることゝ思ふのである。

### 摘草

幼稚園の一日を摘草に過すのは誠に楽しいことである。都會の子ども達には是非こんな機會を度々持たせてやり度い。草は場所によつて種類があらうからどれをと決められないが何といふ草といふことを知つてゐてこれは何といふ名を教へる。なづかなら實をすり合せて音を出して遊ばせてペン／＼草ともいふことを話したり、よめなはよく似た葉の毛ばのあるのと區別して食べられることを話したり、もちぐさはおもちに入れることを話し、つくしのお母さんすぎなでつなぎめのでつこをしたりする。大岩先生のおかき下さつた様に花壇を用意しておいた中に根ごとぬいて來たすみれ、たんぽぽを子ども達の好むやうに植ゑさせやう。又摘草で氣をつけることはたゞむやみに摘んだり、ちぎり取つたりしないで後始末をきちんとしてやることである。取つた草を植ゑるとか、花びんに挿すとか、まゝごに用ひるとかして無駄に捨てないやうにし度い。

### 種子蒔き

蒔く種子の種類や土ごしらへ等準備については大岩先生が詳しくおかき下さつたのでそれによつて子供と一しよに種子をまく。

まだ小さい子ども達のことであるから斯うしてまくのよといふ様にやつてみせて、種子をみんなに少しづつわけてどの子どももまくやうにする。又自分の鉢、自分の庭を持たせることはよいことであるから組の庭の他に銘々のを持たせやう。都會地で庭のない所では木箱でしやう。何月何日に何の種子蒔きをしたかを黒板のすみにも書いておき、又毎日子どもと一しよに水をやつたりして氣をつけ、芽が出た日や葉がどう出た時などみんなに知らせて注意するやうにする。

### 近所のお宮

天長節、靖國神社例大祭があるこの頃、近所のお宮では聖壽萬歳を祈り、皇軍武運長久祈願が行はれる。一日子ども達と一緒に詣りしやう。身をきよめ神前に額く作法を教へ乍ら祈る。その言葉は本誌二月號倉橋先生の御記事にあるやうにし度い。

## 談話

### 志村貞子

#### 桃太郎、花咲爺、舌切雀

一年間、或は二年間、心をこめて慈しんできた子供達が入園當初とは見違へる程大きく、立派になつて、間もなく國民學校へと集立つて行きます。子供達の新しい門出にあつて、その前途の限りない幸福を祈る先生方の御心持は、亦同時に、四月から新たに授けられる子供、新入の園児達への種々細やかな御心づかひになつて現れて來ることと思ひます。誠に有難いことです。皆様之行届

いた御心遣、御準備に對して今更私のやうな者が存じますが新入園児を迎へての「おはなし」に就いて考へてみようと思ひます。

幼稚園の「おはなし」は先づ「おはよう」の御挨拶に始ります。と申しますのは、「おはなし」は言葉の生活であるといふことです。また同時に心の交流であるといふことです。

「靖子ちゃん、お早うございませう」

「次郎ちゃん、お早う、こちらへいらつしやいな」

「先生、お早うございませう」「おや、お早う、随分お早いおね」

ニコニコ笑ひながら言ふ子供、元氣よく大聲で言つて飛びついて來る子供、部屋の入口できちんと御辭儀をしていふ子供、いづれにしてもよく來ましたね、お早う」と迎へる先生の心持に變りはありません。「おはよう」といひ、「おはよう」と返す心からの朝の挨拶。先生と子供との心の暖い交流です。先生への親しみ、幼稚園への親しみはこゝから始まるのではないでせうか。「おはなし」はこの「おはよう」のやうに、私共が、子供達が、日常行つてゐる平凡な言葉の生活です。平凡ながら、豊かな、暖い生活です。子供同志の話、先生と子供との話、きかせたり、きいたり生活です。平凡なことですが、多くの子供達の中にはこの「おはなし」の中になか／＼入れない子供も居ります。すべての子供に豊かな「おはなし」の生活を享けさせるためには、先生の細かな心遣ひとたゆみない努力が必要でありませう。この「おはなし」、平凡ながら、深く、深い言葉の生活についてこゝにそのすべてを述べることが出来ません。こゝでは、その中の極めて限られた部分、即ち、先生が話して聞かせる「お話」について考へてみませう。